様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月　８ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ０２２１７

研究課題名（和文）サンスクリット仏教文学史の中期以降の諸作品の研究

研究課題名（英文）A Study of Buddhist literary works of Sanskrit literature of the middle period and later

研究代表者
岡野　潔（OKANO, Kiyoshi）

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号：８０２２１８４４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：　4年間の研究期間（2017年4月～2020年3月）の研究成果：
（１）梵文『ハリバッタ・ジャータカマーラー』の研究として、合計17の章の和訳を発表した。また（２）梵文『菩薩アヴァダーナの如意蔓』の研究として84章『マドゥラ・スヴァラ』と93章『スマーガダー・アヴァダーナ』の校定・翻訳を、また（３）梵文『如来出生アヴァダーナマーラー』の研究として13章と14章の校定・翻訳を、また（４）梵文『善説語大ラトナ・アヴァダーナマーラー』の研究として20章と21章の校定・和訳を発表した。また『六趣輪廻経』の梵蔵漢巴の４言語テクストの校訂を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　サンスクリット（梵語）文学史の中での一つの独立したジャンルとして、インド文化圏の仏教徒による２千年の梵語作品の文学史が学問的に構築されなければならない。しかし現時点ではその文芸史の構築はまだ困難であるといわねばならない。なぜなら仏教梵文学の領域の諸研究の分布は、２千年にわたる文芸の歴史の全体を十分に俯瞰するには、まだむらがありすぎるし、特に中期以降が不十分すぎるからである。全体的にバランスのとれた仏教文芸史の俯瞰・構築のためには、いま早急に取り組まねばならない二つの課題があり、それは、一には、インドの成熟期の仏教詩人たちの作品の研究、二には、インド外、特にネパール仏教の梵文学の研究である。

研究成果の概要（英文）：　My works during the term of 4 years of research (from April, 2017 to March, 2020):
(1) I translated 17 chapters of HaribhaTTa's JAtakamAlA (chapters 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 11, 12, 14, 19, 20, 22, 24, 26, 32) from Sanskrit to Japanese.　(2) I made a new edition of Sanskrit and Tibetan texts of the 82th and 93th chapter of KSemendra's BodhisattvAvadAnakalpalatA and translated into Japanese.　(3) I edited and translated the Sanskrit texts of the 13th and 14th chapter of the TathAgatajanmAvadAnamAlA and (4) the Sanskrit texts of the 20th and 21th of the SubhASitamahAratnAvadAnamAlA accompanying Jap. translations of the 7th and 8th chapters of AvadAnazataka. Besides, I made a critical edition of the SaDgatikArikA of 4 classical languages (Sanskrit, Pali, Tibetan, Chinese).

研究分野：インド仏教

キーワード：仏教学　仏教文学　サンスクリット文学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

「サンスクリット仏教文学史」を学問として構築するために学界が今果たしておかなければならない課題が二つ存在する。その課題の一は、インド仏教文学史における大作、つまり文学として最も高い評価を与えるべき諸作品に対する研究が現時点では不十分すぎることである。「仏教梵文学史」といえば直ちにアシュヴァゴーシャ（馬鳴）の名前が思い浮かぶが、しかし梵文学史上の仏教詩人たちの文学的達成を考察する場合、アシュヴァゴーシャよりも後の時代の諸作品に、十分に焦点をあてる必要がある。仏教梵文学の分野の世界的権威であったミヒャエル･ハーン博士の意見によれば、サンスクリット語で書かれたインド文化圏の仏教文学の作品の中で、アランカーラ学（修辞学）の習熟度などの観点から芸術的に見て最も高いレベルにあるカーヴィア（美文体文学）作品は、初期のアシュヴァゴーシャなどの作品でなく、むしろ中期の『ハリバッタ・ジャータカマーラー』である。またハーン博士は 11 世紀のクシェーメーンドラが遺した『菩薩アヴァダーナの如意蔓』という作品を、仏教徒梵文学の長い歴史の中で一大転機をもたらした作品であると高く評価する。また 12 世紀のサルヴァラクシタ『大いなる帰滅の物語』も文学的に高く評価できる。それらの中期･後期の、芸術的に成熟したインド仏教文芸の諸作品の研究を、「仏教梵文学史」構築のために積極的に進める必要がある。

課題の二は、インド外の仏教徒、特にネワール仏教徒が中世以降に作ったネパール撰述の梵文学の作品群の研究が、「仏教梵文学史」の構築のためには欠かせないが、その領域に作品は多量にあるにもかかわらず、その領域の研究が世界の学界において現時点ではまだわずかしか進んでいないという課題である。今特にアヴァダーナマーラーの諸作品の研究を総合的に進める必要がある。

以上のこれら二つの大きな課題の克服が、仏教徒の梵文文芸史の全体を構築するために必要であり、学界が集中的に取り組むべき課題となっている。そのため私の研究計画は、その二つの研究課題を中心に置くものである。すなわち、第一の課題のために、『ハリバッタ・ジャータカマーラー』およびクシェーメーンドラの『菩薩アヴァダーナの如意蔓』の研究を行う。そして第二の課題のために、ネワール仏教徒が中世以降に作った梵文のアヴァダーナマーラー文献、具体的には、『如来出生アヴァダーナマーラー』と『善説語・大ラトナ・アヴァダーナマーラー』の二つの梵語文献について、校訂・翻訳・研究を行う。

２．研究の目的

本研究課題の目的は、４年間で次の（1）～（4）の４種類のテクストの研究を進めることにある。

(1)『ハリバッタ・ジャータカマーラー』の翻訳。
(2) クシェーメーンドラの『菩薩アヴァダーナの如意蔓』の校訂と翻訳。
(3)『如来出生アヴァダーナマーラー』の校訂・翻訳・研究。
(4)『善説語・大ラトナ・アヴァダーナマーラー』の校訂・翻訳・研究。

３．研究の方法

（1）『ハリバッタ・ジャータカマーラー』の和訳においては、2019 年までは Michael Hahn (2007) (2011) が出版した、梵文写本が現存する章の梵文の校訂テクストを用いた。2019 年に Martin Straube の梵文校訂テクストが出版されると、それも用いた。

（2）クシェーメーンドラの『菩薩アヴァダーナの如意蔓』の校訂においては、チベット大蔵経の５種の版を用い、チベット語訳を校訂しながら、それを参照して二つの章の梵文を校訂した。第 93 章の校訂では３本のネパール梵文写本を使用したが、第 84 章の校訂においてはその３本に加えて、チベットで発見された２本のデープン寺写本も使用した。

（3）『如来出生アヴァダーナマーラー』の梵文の校訂においては、第 13 章と第 14 章の二つの章の研究を行い、Jayamuni 写本を底本として、３本のネパール梵文写本を使用した。

（4）『善説語・大ラトナ・アヴァダーナマーラー』の梵文の校訂においては、第 20 章と第 21 章の二つの章の研究を行い、高畠寛我 (1954) の『ラトナ・マーラー・アヴァダーナ』出版本の第 27 章と第 28 章テクストも参照しつつ、Jayamuni 写本を底本として、２本のネパール梵文写本を使用した。また 17 世紀におけるネパール梵文仏教文学の諸作品の成立を考察する上で重要な Jayamuni という人物と彼の書いた諸写本について研究を進めた。

４．研究成果

（１）『ハリバッタ・ジャータカマーラー』の研究としては、４年間の研究期間に、合計 17 の章の和訳を発表した。すなわち、2017 年度には第１章～第５章の合計５章の和訳を、2018 年度には第６章～第８章と第 11 章、2019 年度には第 12 章・第 14 章・第 19 章・第 20 章、2020 年度には第 22 章・第 24 章・第 26 章・第 32 章の和訳を発表した。このように 17 の章を翻訳したことは、当初予定された実施計画の２倍の成果である。

（２）クシェーメーンドラの『菩薩アヴァダーナの如意蔓』の研究としては、研究期間全体で、第 84 章『マドゥラ・スヴァラ』と第 93 章『スマーガダー・アヴァダーナ』の二つの章の校定・翻訳を発表した。研究期間の途中で、チベットで極めて重要な２本の貝葉写本が発見されるという研究者にとっての一大事件があったが、私は第 84 章の校訂において、その２本のデープン寺写本も利用し、それらの貝葉写本の価値を確認することが出来た。

（３）ネパール撰述の梵文作品『如来出生アヴァダーナマーラー』の研究については、研究期間の間に、第 13 章と第 14 章の二つの章の校定・翻訳・研究を発表した。2017 年に第 13 章、2019 年に第 14 章の前半部分、2020 年に第 14 章の後半部分の、梵文と訳を発表した。

また 2019～2020 年にネパールの 17 世紀中葉の Jayamuni という人物とネパール撰述の梵文仏教説話文献の形成との深い関係に注目して、その考察を行うことで、思いがけない大きな成果を得た。ネパール撰述の梵文アヴァダーナマーラー文献群がいつ、どこで、誰によって製作されたのか、その謎を解く重要な鍵が見つかった。

（４）ネパール撰述の梵文作品『善説語・大ラトナ・アヴァダーナマーラー』の研究については、４年の研究期間に、第 20 章『園丁アヴァダーナ』と第 21 章『パーンチャーラ王のアヴァダーナ』の校定・和訳を発表した。そしてそれらの二つの章の中にインド仏教の古い２テクストであるシャンカラ・スヴァーミンの『神に対する［仏の］超越の讃』Devātiśayastotra と、梵漢巴の伝承において馬鳴の作とされる『六道頌』 Ṣaḍgatikārikā （六趣輪廻経の梵文）のテクストがそれぞれ丸ごと借用されていることを発見したので、その二つのテクストについても 2018～2020 年に詳細な研究を行い、発表した。また同時に、それら第 20 章と第 21 章それぞれの源泉テクストとしての梵文『アヴァダーナ・シャタカ』の第７章『蓮』と第８章『パーンチャーラ』の和訳も発表した。

特に『六道頌』 Ṣaḍgatikārikā の研究においては、2018 年に梵蔵漢巴の４言語テクストの校訂を発表した。また 2019 年に日本印度学仏教学会第 70 回大会パネル「アシュヴァゴーシャ研究の展開」）において、パネル発表「梵文 Ṣaḍgatikārikā はアシュヴァゴーシャ作か」を行った。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計11件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　11件）

１．著者名 岡野　潔	４．巻 80
２．論文標題 ハリバッタ・ジャータカマーラー研究（四）- 第二二、二四、二六、三二話和訳 -	５．発行年 2021年
３．雑誌名 哲学年報	６．最初と最後の頁 41-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 岡野　潔	４．巻 15
２．論文標題 KalpalatA と AvadAnamAlA の研究（9） - DevatAtizayastotra, SMRAM 第20章, TJAM 第14章（II） -	５．発行年 2020年
３．雑誌名 南アジア古典学	６．最初と最後の頁 89-227
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 OKANO Kiyoshi	４．巻 69-3
２．論文標題 A Study of Buddhist AvadAnamAlAs in Nepal: About ZaGkarasvAmin's DevAtizayastotra, and Some AvadAnamAlAs Related to Jayamuni	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Journal of Indian and Buddhist Studies（印度學佛教學研究）	６．最初と最後の頁 (165)-(173)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 岡野　潔	４．巻 14
２．論文標題 KalpalatA と AvadAnamAlA の研究（8） - Jayamuni, TJAM 第14章（I), SMRAM 第21章, KalpalatA 第84章 -	５．発行年 2019年
３．雑誌名 南アジア古典学	６．最初と最後の頁 1-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岡野　潔	4．巻 79
2．論文標題 ハリバッタ・ジャータカマーラー研究（三）- 第一二、一八、一九、二〇話和訳 -	5．発行年 2020年
3．雑誌名 哲学年報	6．最初と最後の頁 49-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岡野　潔	4．巻 68-2
2．論文標題 （学会パネル発表の発表要旨:）　「梵文 SaDgatikArikA はアシュヴァゴーシャ作か」（日本印度学仏教学会第70回学術大会パネル、「アシュヴァゴーシャ研究の展開」、代表：松田和信）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 印度學佛教學研究	6．最初と最後の頁 261-262
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岡野　潔	4．巻 13
2．論文標題 六道頌（SaDgatikArikAH）の研究　- 梵蔵漢巴 対照テクスト -	5．発行年 2018年
3．雑誌名 南アジア古典学	6．最初と最後の頁 1-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岡野　潔	4．巻 67-1
2．論文標題 SaDgatikArikAH と分別業報略経	5．発行年 2018年
3．雑誌名 印度学佛教学研究	6．最初と最後の頁 150-458
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岡野　潔	4．巻 78
2．論文標題 ハリバッタ・ジャータカマーラー研究（二）　- 第六ー第八、第十一話和訳 -	5．発行年 2019年
3．雑誌名 哲学年報	6．最初と最後の頁 55-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岡野潔	4．巻 12
2．論文標題 KalpalatA と AvadAnamAlA の研究（7）- 第93章 SumAgadhA 及び TJAM 第13章の校訂 -	5．発行年 2017年
3．雑誌名 南アジア古典学	6．最初と最後の頁 1-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岡野潔	4．巻 77
2．論文標題 ハリバッタ・ジャータカマーラー研究（一）　- 第一～第五話和訳 -	5．発行年 2018年
3．雑誌名 哲学年報	6．最初と最後の頁 77-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 岡野　潔
2．発表標題 梵文 SaDgatikArikA はアシュヴァゴーシャ作か
3．学会等名 日本印度学仏教学会第70回学術大会パネル、「アシュヴァゴーシャ研究の展開」、代表：松田和信
4．発表年 2019年

１．発表者名 岡野　潔
２．発表標題 SaDgatikArikAについて - 分別業報略経との関係 -
３．学会等名 日本印度学仏教学会69回学術大会（東洋大学）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

岡野潔の論文 http://gdgdgd.g.dgdg.jp/OkanoPapers.html Bibliography of published papers of Kiyoshi Okano http://gdgdgd.g.dgdg.jp/OkanoPapersEng.html 九州大学附属図書館の「九大コレクション」で岡野潔を検索すると、40本以上の論文PDFをダウンロードできる。 https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_search/?lang=0

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関